

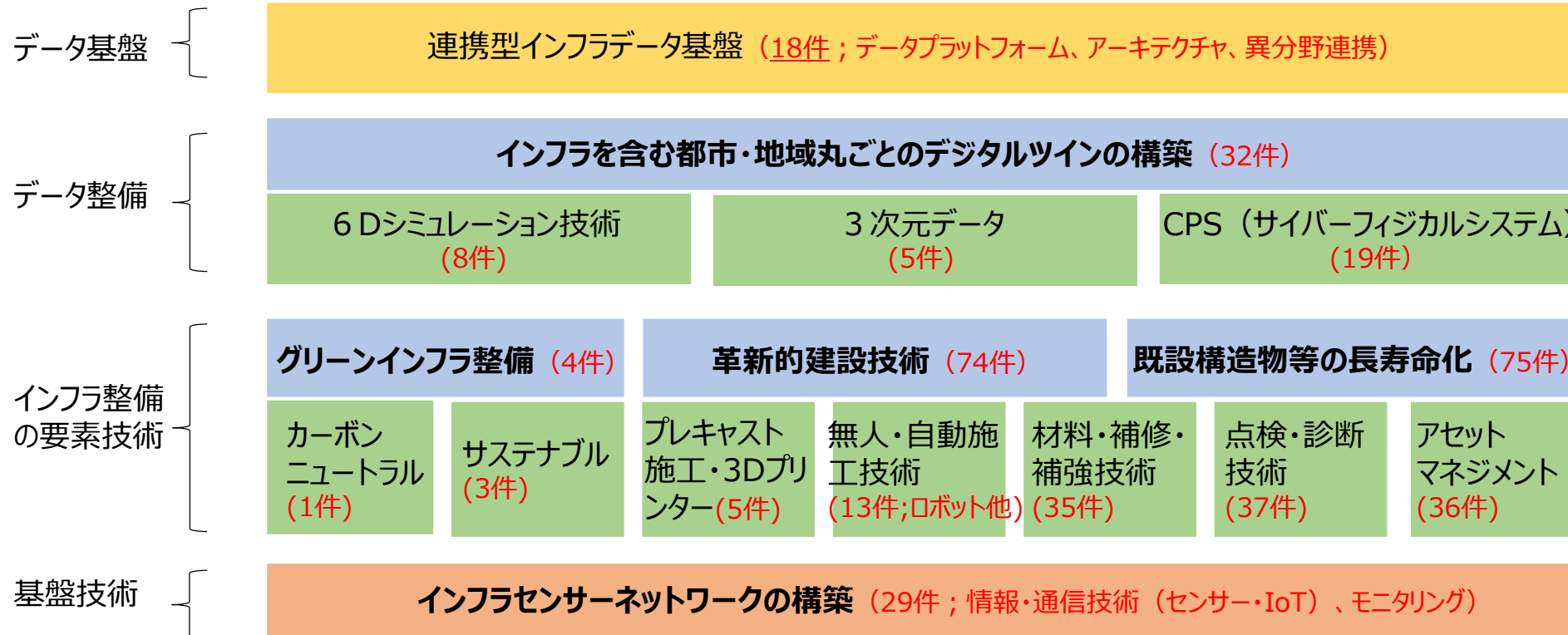
# 次期SIPの課題候補に係る情報提供依頼（RFI）の結果

- 2月末までを期限として、次期SIPの情報提供依頼（RFI）を実施したところ、**産学官の幅広い関係者から、合計1,000件近い情報提供**があった。
- 課題によって情報提供の数や範囲に違いはあるが、**様々な大学、国立研究開発法人、企業等から多面的な視点のアイデアが集まっている**ところ。
- RFIの結果を踏まえ、**各課題候補に係る全体の方向性やサブ課題の構成を整理**するとともに、各課題候補のフェジビリティスタディ（FS）での検討をリードする**プログラムダイレクター（PD）候補に求められるスキルを整理**する。

主領域	件数	提出機関種別										
		大学			国立研究開発法人等			企業			職域 団体	
		内訳			内訳			内訳				
		国立	公立	私立	特定	特定 以外	設立 10年 以上	設立 10年 未満				
01 豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築	68	36	31	0	5	18	2	16	12	11		1
02 統合型ヘルスケアシステムの構築	98	45	34	4	7	7	2	5	30	24	6	16
03 包摂的コミュニティプラットフォームの構築	16	9	6	1	2	1	0	1	6	5	1	0
04 ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築	16	6	5	0	1	0	0	0	7	6	1	3
05 海洋安全保障プラットフォームの構築	80	11	10	0	1	54	2	52	10	9	1	5
06 スマートエネルギーマネジメントシステムの構築	67	35	17	0	18	12	0	12	16	15	1	4
07 サーキュラーエコノミーシステムの構築	77	29	25	0	4	12	5	7	31	31	0	5
08 スマート防災ネットワークの構築	191	56	53	0	3	59	3	56	71	62	9	5
09 スマートインフラマネジメントシステムの構築	217	103	84	7	12	41	18	23	57	51	6	16
10 スマートモビリティプラットフォームの構築	43	13	13	0	0	4	2	2	24	21	3	2
11 人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	17	9	6	0	3	2	1	1	6	5	1	0
12 バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	12	5	3	0	2	2	2	0	5	3	2	0
13 先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進	26	9	6	0	3	10	2	8	7	3	4	0
14 AI・データの安全・安心な利活用のための基盤技術・ルールの整備	21	8	5	1	2	4	1	3	8	6	2	1
15 マテリアルプロセスイノベーションの基盤技術の整備	22	10	9	0	1	9	6	3	2	2	0	1
計	971	384	307	13	64	235	46	189	292	254	38	60

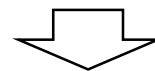
インフラ・建築物の老朽化が進む中で、デジタルデータにより設計から施工、点検、補修まで一体的な管理を行い、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを推進するシステムを構築する。

＜RFI結果を踏まえた課題の構成案＞



凡例  
 (N):RFI数  
 太字 : サブ課題 (案)  
 主なサブサブ課題 (案)

＜PD候補に求められるスキル＞



- インフラの建設・維持管理・運営に関して、IoTやロボット、AIなどの最先端技術の知見を有し、かつ将来像を見据えて業界・分野を超えてマネジメントできる知見、経験、ネットワークを有すること

## 1 募集内容

- ▶名称：戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）プログラムディレクター（PD）候補  
（ガバニングボードの下に**課題候補ごとに設置する検討タスクフォース（TF）座長**）
- ▶対象：**令和3年12月に決定した15課題候補（ターゲット領域）**
- ▶決定手続：**令和4年4月1日～22日（3週間）で公募を実施した。**  
ガバニングボードの審査を経て、**5月26日のガバニングボードで決定予定。**  
決定後、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局から委嘱を行う。

なお、**次期SIPのPDについては、FSを通じて整理された課題ごとに、令和5年当初に改めて公募を行い、応募いただいた方の中から、当該課題の運営に必要な経験や能力を有する者であるかを審査し、ガバニングボードで最終的に決定**する予定。

## 2 業務内容

次期SIPに向けて、ガバニングボードの下に課題候補ごとに設置するタスクフォース座長として、サブ課題等に関する有識者や関係省庁、管理法人等と連携して、RFIで情報提供があった研究開発テーマを参考に、FSを実施し、課題候補の全体を俯瞰した上で、技術面、事業面からのインパクトや実現性等を踏まえ、研究開発テーマを絞り込み、課題の内容や構成を整理した上で、社会実装に向けた出口戦略を含めた研究開発計画案を策定する。

## 次期SIPのPD候補の公募 ②

## 3 選考基準

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）において、ガバニングボードで示された次期SIPに向けた方針等に基づいて実施するために必要な以下の全ての経験・能力を有すること。

- ア 課題全体を俯瞰的にとらえ、**将来像の実現に向けて、ビジョンを描き、技術開発のみならず技術開発に係るルール整備やシステム構築など必要な戦略を打ち出す能力**
- イ 課題候補に関する**国内外の技術や市場の動向、関連する規制・施策等の動向等に関する知見**
- ウ 産学官の関係機関が参画する技術開発から社会実装まで見据えた**研究開発プロジェクト又はこれに相当する重要なプロジェクトにおけるマネジメント経験（5年以上の実務経験を有することを原則とする。）**
- エ 研究開発計画や研究開発テーマ等の内容、進捗状況等について**ステークホルダー等に対し分かりやすい説明や調整ができる能力**

# 次期SIPのPD候補 一覧

通し番号11

No.	課題候補名	PD候補	所属・役職
1	豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築	まつもと えいぞう 松本 英三	株式会社 J-オイルミルズ 取締役 常務執行役員
2	統合型ヘルスケアシステムの構築	ながい りょうぞう 永井 良三	自治医科大学 学長
3	包摂的コミュニティプラットフォームの構築	くの しんや 久野 譜也	筑波大学大学院人間総合科学学術院 教授
4	ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築	にしむら のりひろ 西村 訓弘	三重大学大学院地域イノベーション学研究所 教授・特命副学長
5	海洋安全保障プラットフォームの構築	いしい しょういち 石井 正一	日本CCS調査株式会社 顧問
6	スマートエネルギーマネジメントシステムの構築	あさの ひろし 浅野 浩志	岐阜大学高等研究院特任教授 一般財団法人電力中央研究所 研究アドバイザー 東京工業大学科学技術創成研究院特任教授
7	サーキュラーエコノミーシステムの構築	いとう こうぞう 伊藤 耕三	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授
8	スマート防災ネットワークの構築	くすのき こういち 楠 浩一	東京大学 地震研究所 災害科学系研究部門教授
9	スマートインフラマネジメントシステムの構築	ひさだ まこと 久田 真	東北大学大学院 工学研究科 教授 インフラ・マネジメント研究センター センター長
10	スマートモビリティプラットフォームの構築	いしだ はるお 石田 東生	筑波大学 名誉教授 日本大学 交通システム工学科 客員教授
11	人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	さんかい よしゆき 山海 嘉之	筑波大学 システム情報系教授/サイバニクス研究センター 研究統括 /未来社会工学開発研究センター センター長 CYBERDYNE株式会社 代表取締役社長/CEO
12	バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	もちまる まさあき 持丸 正明	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間拡張研究センター 研究センター長
13	先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進	そうがわ てつおみ 寒川 哲臣	日本電信電話株式会社 先端技術総合研究所 所長
14	AI・データの安全・安心な利活用のための基盤技術・ルールの整備	みやもと やすゆき 宮本 恭幸	東京工業大学工学院電気電子系 教授
15	マテリアルプロセスイノベーション基盤技術の整備	きば しょうすけ 木場 祥介	ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター 株式会社 代表取締役パートナー



## 次期 SIP のフュージビリティスタディ（FS）の運営方針 （案）

令和4年2月17日  
SIP 総括担当

### 1. 目的

次期 SIP の各課題候補について、PD 候補が中心となって、関係府省、管理法人等と連携して、タスクフォース（TF）を設置し、RFI で情報提供があった研究開発テーマ等に関して、技術面、事業面からのインパクトや実現性の調査、分析を行い、その結果を踏まえ、取り上げるべきテーマを絞り込み、課題の成立性を評価したうえで、各課題候補に係る研究計画案に作成する。

### 2. 実施期間

PD 候補決定後（令和4年5月中旬）～令和4年12月

※令和5年3月まで実施可能であるが、令和4年末までにそれまでの成果を取りまとめ、課題候補の成立性や取り上げるべきテーマを整理し、ガバニングボードの了解を得て、研究計画案に反映する必要がある。

### 3. 事業規模

課題ごとに1億円～2億円

※1億円は基礎的な調査費として全課題候補に配分し、残りはPD 候補等の要望に応じて、ガバニングボードの了解を得て、1億円以内で追加配分する。

### 4. 事業内容

（1）基礎的調査、研究計画案作成（5千万円程度）

- ・Society 5.0、各種の国際的な枠組み・政府方針を踏まえ、目指すべき将来像、取り巻く社会課題の整理。SIP に期待される貢献。
- ・解決すべき課題の明確化、解決方法（技術、技術に係るルールや制度）、解決により提供される価値（各ステークホルダーについて）の検討。
- ・解決方法に関する国内外の論文、特許、国際標準化など技術動向分析
- ・解決方法に関連する国内外のプロジェクトの調査。SIP と関係省庁等のプロジェクトとの関係整理。ベンチマークとなるプロジェクトの抽出。
- ・国内外の市場規模・見通し、主要企業の事業化状況、各国の制度整備・関連施策の状況等の調査。日本企業・市場の強み、弱みの分析。

- ・技術面およびビジネス面のロードマップや目標などの社会実装戦略の検討。※別途実施する制度設計の検討における社会実装に向けた指標（BRL 等）の活用を検討。
- ・プロジェクトフォーメーション、社会実装に向けた関係省庁・関係機関等の協力体制の検討。
- ・研究開発計画案の作成。※5年間の事業計画（知財戦略、対外発信も含む）、最終・中間目標、予算の概算、マッチングファンドの見込みなどを記載。
- ・各課題候補のコンセプトを示すイメージ図の作成。各課題に取り組み解決した社会のイメージの作成。

（2）個別テーマの技術実現性、事業性、社会受容性調査（サブ課題（関連する個別テーマを一定の範囲でまとめたもの）ごとに1千万円程度）

- ・主要なテーマについての技術実現性評価（例：他の技術等とのベンチマークによる比較、ボトルネックとなる技術の技術検証、実現性が難しい場合の代替案等）
- ・技術、コスト、制度などの課題抽出、ステークホルダーからのヒアリング。バリューチェーン分析。
- ・モデル試作、シミュレーション等を通じた PoC、ユーザーニーズ調査

## 5. 実施体制（想定されるモデル）

ガバニングボード

↓（評価・方針決定）

タスクフォース（TF）（PD 候補（座長）、関係府省、管理法人、有識者（SPD 等の候補））

↓（実施方針）

管理法人

↓（委託）

調査分析機関

↓（外注（TF が設定するサブ課題について随意契約））

各研究機関等（サブ課題単位：5～10件程度）

※追加配分する場合には管理法人から直接各研究機関等と契約することを検討。

6. 実施スケジュール（最短で実施したケースを想定したもので、実際には管理法人によって運用が異なるものと考えられる。）

3月31日 PD 候補の募集要件、管理法人決定（ガバニングボード）

4月～ PD 候補の公募開始（内閣府）※3週間程度  
FS 調査分析機関公募予告（管理法人）

5月～ FS 調査分析機関公募（管理法人）※5月中締切